

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成29年11月2日(2017.11.2)

【公表番号】特表2016-533507(P2016-533507A)

【公表日】平成28年10月27日(2016.10.27)

【年通号数】公開・登録公報2016-061

【出願番号】特願2016-545238(P2016-545238)

【国際特許分類】

G 0 1 N 33/53 (2006.01)

G 0 1 N 33/543 (2006.01)

C 1 2 Q 1/02 (2006.01)

C 1 2 Q 1/68 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 33/53 D

G 0 1 N 33/543 5 9 5

C 1 2 Q 1/02

C 1 2 Q 1/68 Z

C 1 2 N 15/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成29年9月25日(2017.9.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

対象となる抗原に特異的に結合する抗原受容体を同定するための方法であって、

(a) 複数の抗原受容体発現細胞を抗原と直接接触させることと、

(b) 前記抗原の存在下および非存在下で、前記抗原受容体発現細胞の表面上の活性化接着分子の量を測定することと、

(c) 前記複数の抗原受容体発現細胞から前記抗原に特異的に結合する抗原受容体発現細胞を同定することと、を含み、前記抗原の存在下における抗原受容体発現細胞の前記表面上の活性化接着分子の、適切な対照と比較した前記量の増加は、前記抗原受容体発現細胞への前記抗原の結合を示唆し、それによって対象となる抗原に特異的に結合する抗原受容体を同定する、方法。

【請求項 2】

ステップ(c)で同定された前記抗原受容体発現細胞をクローン的に単離するか、抗原受容体発現細胞をクローン的に単離し、ステップ(c)で同定された前記抗原受容体の少なくとも一部の核酸またはアミノ酸配列を決定することをさらに含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記接着分子はインテグリンであるか、前記接着分子は、白血球機能抗原 1 (L F A - 1) および最晩期抗原 4 (V L A - 4) 分子からなる群から選ばれる 1 以上のインテグリンである、請求項 1 または 2 に記載の方法。

【請求項 4】

活性化接着分子の前記量は、活性化接着分子には結合するが、静止状態にある接着分子

には結合しない細胞外基質タンパク質または抗体への抗原受容体発現細胞の結合を測定することによって測定される、請求項 1 から 3 のいずれかに記載の方法。

【請求項 5】

前記細胞外基質タンパク質は、細胞間接着分子 1（ICAM-1）またはフィブロネクチン分子である、請求項 4 に記載の方法。

【請求項 6】

前記細胞外基質タンパク質または前記抗体への前記抗原受容体発現細胞の前記結合は、前記細胞外基質タンパク質または前記抗体でコーティングされた、ラベルフリーバイオセンサまたは比色共鳴反射光バイオセンサを使用して測定される、請求項 4 または 5 に記載の方法。

【請求項 7】

前記抗原受容体は、ヒト B 細胞受容体である、請求項 1 から 6 のいずれかに記載の方法。

【請求項 8】

前記抗原受容体発現細胞は、B 細胞またはハイブリドーマ細胞である、請求項 1 から 7 のいずれかに記載の方法。

【請求項 9】

前記 B 細胞は、対象となる抗原で免疫学的に負荷を与えていない 1 種以上の動物から単離される、請求項 8 に記載の方法。

【請求項 10】

前記動物は、ヒトである、請求項 9 に記載の方法。

【請求項 11】

前記 B 細胞は、不死化されているか、前記 B 細胞は、不死化されて、内在抗原を発現する、請求項 8 に記載の方法。

【請求項 12】

前記 B 細胞は、異種抗体のライブラリーを発現するか、前記 B 細胞は、ヒトの異種抗体のライブラリーを発現する、請求項 8 に記載の方法。

【請求項 13】

前記ライブラリーは、特有の抗体の天然レパートリーを含むか、前記ライブラリーは、ナイーブ抗体ライブラリーである、請求項 12 に記載の方法。

【請求項 14】

前記ライブラリーは、複数の特有の合成抗原受容体を含むか、前記ライブラリーは、複数の特有のキメラ抗原受容体を含み、各キメラ受容体は、異種結合分子に結合した抗原受容体の一部を含む、請求項 12 に記載の方法。

【請求項 15】

さらに、（b）前記抗原受容体、またはその抗原結合部分を発現させることと、を含む、請求項 1 から 14 のいずれかに記載の方法。

【請求項 16】

前記抗原受容体は、抗体である、請求項 15 に記載の方法。

【請求項 17】

前記抗体の少なくとも 1 つの相補性決定領域（CDR）の核酸またはアミノ酸配列を決定することをさらに含む、請求項 16 に記載の方法。